

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.849
2019.9.29

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
 TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
 http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき	とば めぐみ
とりうみ敏行	金子 あきよ
松村 としお	たけこし 連
久保 みき	

学童保育の運営が厳しい！

予算の増額を

議員・行政との懇談会



懇談会に参加する（左から）松村、久保、金子、とばの各市議

ころも多く、運営上の会計や指導員の確保、施設拡大の際の施設探しも保護者がおこなわなければならない、大きな負担になっています。さらにさいたま市は国の補助制度をごく一部しか使わず、指導員の処遇改善や施設整備支援が立ち遅れています。

こうしたことから懇談会のなかでも「施設を増やそうと思うが家賃が高く見つからない」「10月から最低賃金と消費税が上がる。このままでは運営が赤字になる」「指導員を募集しても集まらないが給料を上げられない」など切実な声が次々と出されました。

当日は参加した議員が一言ずつあいさつを述べました。松村市議は「これまでも国庫補助の活用を議会質問で迫ってきた。公立学童は国の処遇改善補助を今年度から活用し始めたが、引き続き民間学童でも活用するよう求めていきたい」と話しました。

9月8日にさいたま市学童保育連絡協議会主催で「第14回議員・行政との懇談会」が開催され、党市議団から久保みき、松村としお、金子あきよ、とばめぐみの4市議が参加しました。処遇改善や分離・新設、障害児、運営について4つの分科会に各市議が分かれて懇談しました。

さいたま市では学童保育（放課後児童クラブ）に入所する子どもが大きく増え、今年度は1万1305人になりました（5年前から約2500増）。さいたま市では公立は増やさず、民間学童保育の増設で対応してきましたが、民間学童保育は父母会が運営していると

重度障害者の就労支援事業を国の制度に

さきの参議院選挙で、重度障害のある方が議員となり、重度障害者の就労支援のあり方が大きな問題となっています。

もともと重度障害者は日常の生活支援として「重度訪問介護」のサービスが受けられますが、「就労中」の支援は認められていませんでした。そこでさいたま市では、当事者である重度障害者の要望を受け、在宅就労中も「重度訪問介護」の支援が受けられる制度を、市単独事業として6月からスタートしています。

9月2日、神田よしゆき市議が市の取り組みや経過などについて担当課からヒアリングを行いました。そして現在2名の市民がこの

事業を利用していること、予算額は298万円であることが分かりました。その際、担当課からは「本来このような事業は国が行うものであるため、市として国に要望を行い、厚労省は2021年の報酬改定に向けて検討する、との回答であった」との話がありました。

その後、神田市議は「市として重度障害者の就労機会を拡大するためにも、制度を前に進めるようとりくむ。また国会でバリアフリー化の促進が課題になっていることもあり、この事業を国として行うよう求めたい」として、伊藤岳参院議員・塩川鉄也衆院議員に要望しました。

西区 切実な要望を 市政に届けて

両市議
ら報告をおこなう（左から）神田、たけこしの



9月8日、西部文化センター（西区）で開催された市政報告会に神田よしゆき、たけこし連の両市議が参加しました。

はじめに、たけこし市議の初質問の動画を上映しました。たけこし市議は、「市民の声

を直接届けることを意識した」と質問に込めた思いを語りました。神田市議は、再開発優先で市民の福祉予算が減らされている市政の問題について解説し、6月議会に出された議案や請願などの報告をおこないました。会場からは、いじめ問題や公園遊具の使用禁止について、公民館の建て替え問題などについて質問や意見が出され、それぞれについて党市議団の政策を説明しました。

また、水害の被害について「少量の雨でも通学路に水がたまる。早急な対応を」と切実な声が数多く寄せられました。参加者からは「議会を身近に感じた」「国保税や水道料金が全国と比べて高い。なんとかならないか」という感想や意見、コミュニティバスの利便性の改善を求める要望が寄せられました。

加須子育て応援フードパントリーを視察する金子市議



ひとり親世帯の子育て応援 交流できる フードパントリー

れる前の食品を、生活困窮者のために提供する「フードバンク」という事業が県内に拠点を構えておこなわれています。フードバンクに集められた食材などを配布する場所は「フードパントリー」と呼ばれ、埼玉県の支援を

7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれるなか、賞味期限が迫るなどして廃棄さ

受け、市民のボランティア活動として広がりはじめています。

9月20日、金子あきよ市議が「加須子育て応援フードパントリー」（加須市）を視察しました。ここは民間の空き家を利用して、家主が代表となり、多くのボランティアが参加して運営されています。児童扶養手当を受

給しているひとり親世帯を対象に、食事しながら交流をしたり、食材を受け取ったりすることができる場です。金子市議は「子どもたちやお母さんの笑顔が印象的。居場所になっている大切な活動だ。行政のおこなうべき子どもの貧困対策を充実させつつ、民間の支援活動への支援も求めたい」と話しました。

保健福祉委員会 視察

子育て世帯を総合的に支援するために

保健福祉委員会は、9月18日に「さいたま市総合療育センター」および「子ども家庭総合センター（愛称：あいぱれっと）」を視察しました。党市議団からとりうみ敏行、とばめぐみの両市議が参加しました。

総合療育センターは医療と福祉が一体となって障害児の総合的な療育を、子ども家庭総合センターは子どもと家庭をとりまく課題について総合的に支援します。子ども家庭総合センターは、児童相談所・こころの健康センター・総合教育相談室・男女共同参画相談室など、専門部署が集約されており、相談事業に力を入れています。家庭や社会に居場所がない子どもや、虐待による心の傷、発達障



オムツ替えやトイレの準備のための台が並ぶ（療育センター）

害、引きこもりなどで心理的困難や、生きづらさを抱える子どもの進学、復学、就職準備など自立に向けた支援もおこなっています。

視察したとば市議は「素晴らしい施設だが、いずれの施設も人口130万人のさいたま市に1ヵ所しかなく、どちらも満床状態で、専門職の確保や要請、地域偏在性から生じる課題に頭を悩ませていることが分かった。今日の視察を今後の政策に生かしたい」と語りました。

金子あきよが現場を歩く ひとつの教室に2つのクラス?! 特別支援学級を視察

準備中の特別支援学級を視察（内谷中学校）



来年4月から南区の3校（西浦和小学校、内谷・大谷場中学校）に特別支援学級が整備されます。私のもとに「西浦和小と内谷中は生徒が多く空き教室がないのに、どうやって

整備するのか」との声が寄せられ、9月18日に視察してきました。

特別支援学級は生徒8名に教員1名の配置ですが、スクールアシスタントを加えて学級運営をします。知的障害と自閉症・情緒障害の2学級をつくるため、西浦和小と内谷中はひとつの教室を半分に区切り、それぞれホワイトボードやロッカー、更衣スペースを設置する予定ということです。

私は、生徒の安全を守るための配慮や、トイレへのアクセスなどが気になりました。2学級合同で教育活動をおこなうためにクラスを完全に分離しないとありますが、やはりそれぞれに教室や設備が必要です。教室半分では広さも不十分です。今後も現場の先生たちの意見を大事に子どもたちにとってよりよい環境整備を求めています。

あなたの身近な議員です



市議(北区)

神田よしゆき



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保みき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(南区)

金子あきよ



市議(中央区)

たけこし連